

<p>■After</p> <p>建築名称 下段: 英語名</p>	<p>ゴンドランチ</p>			
	House for GONDA	建築URL		
建築用途	大分類 住居施設	小分類 住宅、アトリエ		
設計者	Office for Environment Architecture/吉永 規夫		設計事務	
所在地	兵庫県	Google Ma		
改修年	2021年	元建築の竣工年	1975年	
建築規模 構造・階数・面積	オモヤ:木造平屋 ハナレ:鉄骨造地上2階 延床面積:89.39㎡		After 北東側全景。手前の2階建てが画家のアトリエ(ハナレ)。奥の平屋が居住スペース(オモヤ)	
掲載書誌	新建築住宅特集 2022年4月号		撮影者 提供者 撮影: 笹倉洋平	
賞・選定			概要 after 仲間と1年強かけ日曜大工で修理。四季の変化に身を置き、断熱や窓の改修を重ね、風や光を取り込める住める環境へと整えた。	
主な関連法規、条例、助成金等				
関連組織等				
資料等	平面図	資料のURL		
■Before	モトソウコ		概要 before 1975年築で幾度も改修され、増築も減築も繰り返していた。素人が関与したと思われる箇所もたくさん見られ、構造的にも不安定であった。	
建築用途	大分類 収蔵施設	小分類 倉庫		
■写真 Before	リノベーション前のオモヤ内観。	After	アトリエ内観。	After オモヤの書斎からキッチンを見る。間仕切りのない空間で、床高の差により領域を分ける。
				
撮影者 提供者 0	撮影者 提供者 撮影: 笹倉洋平	撮影者 提供者 撮影: 笹倉洋平		
■関連タグ/リノベーションキーワード	用途変更、補強、セルフビルド			
■リノベーション内容	<p>人の家のお風呂に富士山を描く画家から、3棟の倉庫物件を見に来てほしいと言われた。周辺は道路に面した敷地からマンション等へ更新が進んでいたが、今回の敷地は路地のみで再建築不可の条件であった。隣近所も接道していない木造家屋は取り残されたように高齢者が住み続けていたが、路地を介してご近所付き合いもほどよく残っていた。既存建物は1975年築で幾度も改修され、増築も減築も繰り返していた。素人が関与したと思われる箇所も多く構造的にも不安定であった。改修予算が限られていたこともあり、住人と仲間たちで1年強をかけた日曜大工で修理した。2020年春に着工すると、風の心地よさを体感し、窓を引き込み窓に取り替え四方八方から風が流れ込むようにした。夏は屋根下の猛暑に断熱材の充填を急ぎ、秋は外壁を下地材の胴縁の重ね合わせで仮の仕上げとした。冬には住める設えになっていたが、残工事も多く、まだ住み始めることはなく2回目の春を迎えた。小さな修繕が周辺を巻き込み、生きられる場所へと紡いでいく。街全体を家と考ええると暮らしは豊かに感じられる。現場である環境に身を置き修理したことは、既存へ働きかけ価値を発見し、次の時代へ継承していく野蛮で原始的なフロンティアがそこに広がっていることを確信させた。</p>			
■備考	クライアントを巻き込み、コロナ禍の緊急事態宣言が発令していた時期に、ステイ現場を貫き、13ヶ月・延62日間でリノベーションした。			
■作成者 氏名/所属	Office for Environment Architecture/吉永 規夫	作成協力者	整理番号	No238